

授業科目	母性看護学	講師名	看護専任教員他	
開講時期	1 年次後期～3 年次後期	単位数	6 単位	1 9 5 時間

【目 的】

主に思春期から更年期にある母性の対象の特性を理解し、その対象および家族の適応を促進し、次代の新しい人間を生み育てる人々を支援するために必要な基礎的能力を養う。

【構 成】

母性看護学	6 単位	1 9 5 時間
母性看護学概論	1 単位	3 0 時間
生殖生理と疾病・障害	1 単位	3 0 時間
母性看護学方法論Ⅰ	1 単位	3 0 時間
母性看護学方法論Ⅱ	1 単位	1 5 時間
母性看護学実習	2 単位	9 0 時間

授業科目	母性看護学概論	講師名	長谷川和子 医師		所属	看護専門学校 保健学部
開講時期	1 年次 後期	単位数	1 単位	時間数	30 時間	

【学習目的】
母性の概念および母性の特性や発達段階に応じた女性の健康と健康問題を通して、母性看護に必要な知識を学ぶ。

【学習目標】

1. 看護の特性から母性看護の概念を理解する。
2. リプロダクティブヘルスの意義を理解する。
3. 母性の発達段階に応じた健康や健康問題を理解する。
4. 母性およびその家族への看護の必要性がわかる。
5. 母性の対象をとりまく保健・医療・福祉の現状を理解する。
6. 人間の生命について自己の考えが深まる。

【学習内容】

1. 母性および母性看護の概念
 - 1) 母性とは
 - 2) 母子関係と家族発達
 - 3) セクシュアリティ
 - 4) リプロダクティブヘルス/ライツ
 - 5) ヘルプモーション
 - 6) 母性看護のあり方
 - 7) 母性看護倫理
 - 8) 安全・事故予防
2. 母性看護の対象を取り巻く社会の変遷と現状
 - 1) 母性看護の変遷と現状
 - 2) 母性看護の対象を取り巻く環境
 - 3) 女性・家族のライフサイクル
3. 母性看護の対象とその理解
 - 1) 母性の発達・成熟・継承
 - 2) ライフサイクルにおける形態・機能の変化
 - 3) リプロダクティブヘルスケア
4. 女性のライフサイクル各期における看護
 - 1) ライフサイクルにおける女性の健康と看護の必要性
 - 2) 思春期の健康と看護
 - 3) 成熟期の健康と看護
 - 4) 更年期の健康と看護
 - 5) 老年期の健康と看護
 - 6) 母性看護に必要な看護技術
5. 母性看護の展望と課題
母性と生命倫理: グループワークおよび発表

【使用テキスト】

母性看護学〔1〕母性看護学概論 医学書院
母性看護学〔2〕母性看護学各論 医学書院
国民衛生の動向 厚生統計協会

【評価方法】
学科試験（筆記試験）
授業参加（小テスト含む）ならびにレポート等提出状況を併せた総合評価

備考
事前課題を行ったうえで、講義に参加してください。

授業科目	生殖生理と疾病障害	講師名	医師 長谷川和子		所属	医学部 専任教員
開講時期	2 年次 前期	単位数	1 単位	時間数	30 時間	

【学習目的】

正常な妊娠・分娩の経過および妊婦・産婦・褥婦および新生児の生理的理解、妊娠・分娩・産褥経過中の異常や問題を理解し、診断や医学的対応、管理の方法を学ぶ。

【学習目標】

1. 妊娠・分娩に伴う生理的变化や、妊娠・分娩の経過が理解できる。
2. 妊娠の診断や胎児の診断の方法が理解できる。
3. ハイリスクおよび異常妊娠の要因や診断、その対応が理解できる。
4. 異常分娩の要因や診断、その対応が理解できる。
5. 新生児の異常の要因や診断、その対応が理解できる。
6. 不妊となる因子とそれに対する検査法および治療法について理解できる。

【学習内容】

1. 女性のライフサイクルに伴う形態・機能の変化
2. 不妊症
3. 正常妊娠
4. ハイリスク・異常妊娠
5. 正常分娩
6. 異常分娩
7. 新生児の生理・新生児の異常
8. 産褥期の生理

【使用テキスト】

母性看護学〔1〕母性看護学概論 医学書院
母性看護学〔2〕母性看護学各論 医学書院

【評価方法】

学科試験（筆記試験）
課題

備考

授業科目	母性看護学方法論Ⅰ	講師名	長谷川和子 助産師		所属	看護専門学校 杏林大学病院
開講時期	2 年次 前期	単位数	1 単位	時間数	30 時間	必修

【学習目的】

妊婦・産婦・褥婦および新生児とその家族の特性を理解し、それぞれの過程においてセルフケア能力を高め適応促進に向けた看護の役割と方法を学ぶ。

【学習目標】

- 母性のライフサイクルにおける女性の健康と必要な看護を理解する。
 - 妊婦・産婦・褥婦および新生児の看護の必要性が認識できる。
 - 妊婦・産婦・褥婦および新生児の生理的変化を促進する看護が理解できる。
 - 妊婦・産婦・褥婦および新生児の健康を促進するための看護が理解できる。
 - 妊娠・分娩・産褥期を通して親子関係を促進するための看護が理解できる。
- 母性看護に必要な看護技術を理解する。
- 自己の母性観・父性観を発展させる。

【学習内容】

- 妊婦の看護
 - 妊婦のアセスメント
 - 妊婦の心理社会的特性
 - 妊婦と家族の看護
- 産婦の看護
 - 産婦・胎児・家族のアセスメント
 - 産婦と家族の心理・社会的特性
 - 産婦と家族の看護
- 新生児の看護
 - 新生児のアセスメント
 - 出生直後の看護
 - 出生後から退院までの看護
- 褥婦の看護
 - 産褥のアセスメント
 - 褥婦の心理・社会的特性
 - ソーシャルサポート
 - 褥婦と家族の看護
- 腹式帝王切開術を受ける産婦の産褥経過および看護
- 母性の援助技術
 - 妊婦の看護技術
 - 新生児の看護技術

【使用テキスト】

母性看護学〔2〕母性看護学各論 医学書院
 母性看護学〔1〕母性看護学概論 医学書院
 ナーシンググラフィカ 母性看護学 ② 母性看護技術 メディカ出版

※参考図書 ナーシング・グラフィカ 母性看護学 ① 母性看護実践の基本 メディカ出版

【評価方法】

学科試験（筆記試験）
 授業参加（小テスト含む）・提出物を併せた総合評価

備考

事前課題を行ったうえで、講義に参加してください。
 母性看護学概論・生殖生理と疾病障害での学習を関連づけて講義に臨んで下さい。

授業科目	母性看護学方法論Ⅱ	講師名	看護師・助産師 長谷川和子		所属	杏林大学病院 看護専門学校
開講時期	2 年次 後期	単位数	1 単位	時間数	15 時間	

【学習目的】

妊娠・分娩・産褥期にある対象および新生児の生理的・心理社会的適応を促進する看護をふまえ、ハイリスクな状況にある、妊婦・産婦・褥婦および新生児の対象を理解し、家族を含めた看護を学ぶ。

【学習目標】

1. 妊娠期・分娩期にある対象の特徴をふまえた産褥期にある対象および新生児の看護過程を展開できる。
2. ハイリスク妊婦の看護が理解できる。
3. 異常のある新生児および早産児の家族を含めた看護が理解できる。
4. 家族を含めた看護の必要性が理解できる。

【学習内容】

1. 産褥期にある母子の看護過程
2. ハイリスク妊娠・異常を生じた妊婦の看護
 - 1) 近年の妊産褥婦を取り巻く現状
 - 2) 合併症を持つ妊婦の看護
3. 異常を生じた褥婦および新生児の看護
 - 1) 早産児および低出生体重児の特徴と看護
 - 2) 親子分離にある親子および家族への看護
4. 児を喪失した家族への看護

【使用テキスト】

母性看護学〔2〕母性看護学各論 医学書院

※参考図書 ナーシング・グラフィカ 母性看護学 ① 母性看護実践の基本 メディカ出版

【評価方法】

学科試験（筆記試験）
看護過程（課題提出）

備考

授業科目	母性看護学実習	講師名	実習担当教員 実習指導者 助産所助産師		所属	看護専門学校 杏林大学病院 助産所
開講時期	2 年次後期～3 年次後期	単位数	2 単位	時間数	90 時間	必修科目

【意義】

母性看護学実習では、特に援助を必要とする狭義の母性の対象、妊婦・産婦・褥婦ならびに新生児を中心に、ヘルスプロモーションに向けた看護の視点から実習を行う。産科病棟での実習では、妊婦と胎児、または褥婦と新生児という、二人の対象者が相互に影響しているという視点をもとに、二人の対象への看護を考えていく。また、対象者の変化を生理的な変化と捉え、ウェルネスの視点で看護を展開することを体験して欲しい。

母性をめぐる環境は、複雑かつ多様化しており、特に妊娠・分娩・産褥期における看護の役割は、ますます大きくなっている。また、子どもに接する機会の少ない世代の出産や育児は、心理的な援助が重要性を増し、母親のみならず家族を含めた支援や社会資源の活用の推進が重要である。これから始まる子育てが、対象にとってより快適で有意義なものになるように援助することは、母性看護の重要な役割である。

妊娠・出産の安全性は増している。しかし、例え一時的ではあったとしても、母体や胎児の命が危険にさらされている。また、母性看護学実習で、実際に生命の誕生や命を育む過程に触れることで、命の誕生が尊いという事実を知ってほしい。その体験は、人間の生命に対する深い畏敬につながるとともに、自己の存在を含め、生命について振り返るかけがえのない体験となる。実習を通して、「命」「母性」「父性」「家族」について考える機会とする。

【目標】

妊婦・産婦・褥婦・新生児の特徴を理解し、ウェルネスの視点を持った上で、相互に依存しあう母と子への必要な看護を考えることができる。

【学習方法】

1. 産科病棟実習（1 週間）
2. N I C U 実習（1 日間）
3. 産科外来実習（1 日間）
4. 助産所実習（1 日間）
5. 学内学習

【評価方法】

1. 「評価基準」に基づいて行う。
2. 規定時間の 4／5 以上の出席をもって評価の対象となる。

詳細は「臨地実習要項」を参照とする。

備考

「母性看護学実習」の受講には、実習開始前に、以下の科目を履修していることが必要である。
基礎看護学実習Ⅰ、基礎看護学実習Ⅱ